

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための 「兵庫医科大学病院 内視鏡センターでの診療体制の取り決め (2020. 4. 16 現在)」

消化器内視鏡診療にあたっては、経口・経鼻内視鏡は患者の咳嗽を誘発し、エアロゾルによる医療従事者への感染が危惧される。また検査室など密閉された空間で、高濃度の汚染されたエアロゾルに一定程度の時間曝露した場合は、エアロゾルによるウィルスの伝播が高頻度で起こりうると考えられる。また糞便からのウイルス排出の可能性も指摘されており、下部消化管内視鏡検査における潜在的な感染リスクもあるということが注意喚起されている。以上を踏まえ兵庫医科大学病院・内視鏡センターでは、日本消化器内視鏡学会の指針（第3版：2020年4月9日）に従い、下記の取り決めで内視鏡検査業務をおこなっている。

消化器内視鏡診療の施行について

最近の感染拡大の状況に鑑みて、日本消化器内視鏡学会では2019新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）のPCR検査陽性の方、以下の条件のいずれかに該当する方（COVID-19が確定した症例・臨床的にCOVID-19を疑う症例：ハイリスク患者）に対しては、緊急性のある場合においてのみだけ、消化器内視鏡診療の施行することが推奨されておりますので、当院でもその指針を遵守して内視鏡検査業務をおこなうこととしている。また、ハイリスク群以外の患者に関しては問診と検温を徹底し、少しでも感染を疑う患者に対しては消化器内視鏡診療の延期・中止を推奨している。

日本消化器内視鏡学会 HP から (<https://www.jges.net/medical/covid-19-proposal>)

表1

新型コロナウイルス感染症のリスク分類

・ハイリスク

- PCR陽性患者
- 以下の症状等があり、感染が疑わしい患者
 - 風邪の症状や37.5℃以上の発熱がある方。
 - 2週間以内に新型コロナウイルスの患者やその疑いがある患者との濃厚接触歴がある方。
 - 2週間以内に感染多発地域への渡航歴がある方（感染地域の判断は、各施設で対応）
 - 強い倦怠感や息苦しさを訴える方。
 - 明らかな誘因のない味覚・嗅覚異常を訴える方。
 - 明らかな誘因なく4～5日持続する下痢等の消化器症状

・ローリスク

- 上記以外

表2

ローリスク時の対応

- スタンダードプリコーション+飛沫・接触予防策の徹底
 - フェースシールド付きマスク（またはゴーグル+マスク）・手袋・キャップ・長袖ガウンの着用を推奨
 - 各種防護具は患者毎に交換が望ましいが、施設状況に応じて対応。
(フェースシールド・ゴーグルはエタノール清拭での対応なども考慮)
 - 検査・治療終了後は、手指・手首（可能な限り肘まで）の確実な洗浄
- 上部消化管内視鏡の前処置時
 - スプレータイプで施行する場合は、咳嗽によるエアロゾルを発生させる可能性があるため、防護衣着用を推奨

なお、新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく緊急事態宣言の対象地域においては、少なくとも緊急事態宣言の間中は、ローリスクであっても緊急以外の内視鏡診療の延期・中止を強く勧めます。(2020年4月9日)

消化器内視鏡診療における防護策について

最近は無症状のウイルス感染例の報告も相次いでいるため、当院での消化器内視鏡施行の際には、スタンダードプリコーションを徹底している。具体的には内視鏡検査をおこなう検査医は必ずゴーグル、マスク・手袋・エプロン（必要時長袖ガウン）の着用し、各種防護具は患者毎に取り換え、検査・治療終了後には手指洗浄を行っている。また前処置施行から上記の防護策を着用している。消化器内視鏡診療終了後の内視鏡運搬や洗浄に際しては、十分な防護策の下で本学会の「消化器内視鏡の洗浄・消毒標準化にむけたガイドライン」に則り対応している。なお、COVID-19が確定されている患者はまだ当センターでは経験しておりませんが、内視鏡検査・治療を行わなくてはならない場合、または内視鏡施行後に感染

が判明した場合は、当院のガイドライン、日本環境感染学会から感染対策に関する詳細なガイド (<http://www.kankyokansen.org/>) に従って対応する予定である

消化器内視鏡診療に携わる医療従事者について

日本消化器内視鏡学会の指針に従い、消化器内視鏡担当医もしくは内視鏡診療に携わるメディカルスタッフが上記 1)-6) に該当する際には、感染防止の観点から検査治療には携わらないことにしている。

1. 感冒症状や 37.5℃以上の発熱。
2. 2週間以内の新型コロナウイルスの患者やその疑いがある患者との濃厚接触歴。
3. 2週間以内の感染多発地域への渡航歴
4. 強い倦怠感や息苦しさ。
5. 明らかな誘因のない味覚・嗅覚異常。
6. 明らかな誘因なく 4-5日続く下痢等の消化器症状。

消化器内視鏡室における対応と環境について

内視鏡施行当日、内視鏡室入室前には当センターで作成したコロナ問診表を全ての患者に記載して頂き、当日の体温測定や身体症状の確認により、内視鏡施行の可否について慎重に判断している。また、内視鏡センターにおいて飛沫感染や接触感染を予防するために、待合室、各検査室、内視鏡センター内の廊下での空気換気を常時おこない、また待合室でも安全な距離を保てる環境を整備しています。

2020. 4. 16

内視鏡センター

医局長 富田寿彦

センター長 三輪洋人